

第27期第13回常任理事会議事録

日時：1994年3月1日14時00分～17時15分

場所：気象庁内日本気象学会事務室

出席者：浅井、竹内、岩崎、大西、小倉、木田、関口、
中村、新田、藤谷、松野、村上、以上12名

議事

1. 第27期第12回常任理事会議事録の確認
一部修正のうえ承認。
2. 第27期第2回評議員会議事録の確認
追加修正の意見を3月4日まで受け付けることとし、暫定的に承認。
3. 各委員会からの報告及び審議
庶務…転載許可2件

- ・気象業務法改正に伴う、財団法人気象業務支援センターの設立に関連し、気象庁から同センターの評議員1名の推薦依頼があった件について、山岬正紀会員（東京大学）を推薦した。

- ・2月24日に天気と集誌の入札説明会。集誌6社、天気4社が参加。応札は3月4日。

会計…1994年1月の収支決算を報告。気象研究ノートの発行が予定より少なかったため、収入、支出とも予算より少ない。IAMAPの決算はまだはっきりしないが、気象学会からの補助金支出は当初予定した600万円（総額）より少なくて済みそう。

天気…2月号の内容及び3、4、5月号の予定を報告。

- ・IAMAP特集号を校正中。当初予定の80ページより増える見込み。

- ・会員名簿の作成について常任理事会として議論。2年前を参考に、なるべく安上がりな方法にする。前回までの役員選挙では、選挙のために会員名簿作成が必要であったが、選任方法の変更で名簿を2年に1度作成する必要がなくなった。何年に1度作成するか、全員に配布する必要があるかどうかなども含めて次回の常任理事会で最終決定することとした。

気象集誌…4月号は論文9編。短報等2編

- ・TOGA/COARE特集号を来年2月に発行する予定で作業を進める。250から300ページを予定。収支では50万円程度の一般会計からの

支出が必要になる見込み。論文募集を天気3月号と集誌4月号に掲載する。

- ・この件に関し、常任理事会として3名の特別編集委員の委嘱を承認。論文提出期限が6月末であることに、海外からの投稿者は事実上投稿不可能で、公平さに欠けるとの批判が出る恐れがある点が議論になり、論文公募ではなく、TOGA/COAREに関する日本の研究活動の紹介を目的に編集する等の編集委員会としての編集方針を明示するほうが良いとの結論になった。天気、集誌への公示のスタイルについて、再度、編集委員会で相談することとする。

研究ノート…182号は「酸性雨2」で印刷中。

- ・「やませ」の特集号は執筆依頼中。

教育と普及…1994年度夏季大学は8月1日から3日まで気象庁講堂で開催予定。テーマは「局地風」。

- ・気象談話室は、まだテーマはあると認識し、継続することになった。担当委員の体制を強化する。

IAMAP…3月15日に学術会議の第3回組織委員会が予定されており、ここで会議のまとめや会計決算報告が承認され、組織委員会は解散する。

パソコン通信…1月の着信件数227件。

- ・3月31日にホスト機を業者から学会事務局に移設する。これに伴い、BBS番号が変更されるとともに、半日程度のサービス休止となるのでPRする。

各賞・奨励金…天気3月号で奨励金候補者募集を行った。

4. 会員の新規加入等について
個人13名の入会を承認。個人4名、団体1の退会を報告。
5. 1994年度学会賞・藤原賞候補者に対する投票結果について
理事27名中25名（4分の3以上）の投票があり、以下の候補者全員が有効投票の3分の2以上の承認を得て受賞者と決定された。

学会賞＝高橋正明会員

（東京大学、気候システム研究センター）

「数値実験による準二年周期振動の研究」

藤原賞＝栗原宜夫会員

(米国海洋大気庁, 地球流体力学研究所)

「数値モデルを用いた熱帯低気圧の理解及び予報についての研究」

住 明正会員

(東京大学, 気候システム研究センター)

「TOGA を中心とする熱帯海洋大気結合システム研究の推進」

6. 1994年総会議題について

文部省から指導があった「特定の理事の親族等が理事数の3分の1を超えることの禁止」についての規定を定款に含める件について、総合計画担当理事が定款の一部改正案の原案を提案。常任理事会としてこれを承認し、天気3月号に掲載することとする。理事候補選挙の結果の公示は選挙管理委員会から天気4月号に行われる。また、同選挙の当選者によって推薦された理事候補の名簿も天気4月号に公示す

る。このための調整作業は庶務担当理事が行う。

7. 1995年春季大会について

担当は東京管区気象台と気象庁海洋気象部。会場について、事務局で竹橋会館を打診してみたところ、改装工事後は30パーセント程度の利用料金の値上げが見込まれる。組合員料金で借りられるかどうか大きな問題であるが、会館側担当者話では可能であろうとのこと。

8. 1994年度事業計画案および予算案

中部支部が初めての夏季大会を計画している。

天気のIAMAP特集号、集誌のTOGA/COARE特集号、秋季大会シンポジウムへの国際学術交流基金援助等で300万円程度の支出が見込まれる一方、TRMM等の委託研究に関する学会管理費の臨時収入も見込まれるので、多少の赤字予算で済む見込み。郵便料金値上げで学会費値上げによる増収700万円のうち200万円を使うことが必要となり、痛い。

NEWS から気候情報へ

「天気」ではこれまで「NEWS」のコーナーで気候に関する情報として、最新の北半球500hPa天気図と世界の気候の記事を毎月掲載してきましたが、最近の気候に関する会員の関心の高まりに対応して、今月号から名称を「気候情報」と変え、海面水温の状況やオゾンの情報など気候に関連するいくつかの情報を定期

的に掲載することと致しました。

新しい「気候情報」についてご意見ご希望などがございましたら、編集委員会まで積極的にお寄せください。

「天気」編集委員会